



A

患者さんに安全な血液をお届けするためです。

献血された血液は、患者さんに安全な輸血が行われるよう、血液型をはじめ厳しい検査が行われています。

しかし、肝炎やエイズの感染初期には、最新の検査によっても感染を発見することはできないことから、検査目的の献血は、患者さんに感染させてしまうかもしれない大変危険な行為となります。もしも、肝炎やエイズに感染した可能性がある、あるいはその心配がある場合は、専門の医療機関または最寄りの保健所に「ご相談ください。また、エイズ検査の結果は、お知らせしていません。」

Q2

なぜ献血された血液を検査するの？

A

衛生環境は厳重に管理しているため、心配ありません。

献血をするときに使われる針や血液のバッグなどは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、ほかの献血者から肝炎やエイズなどの病気がうつる心配は絶対にありません。

Q1

献血の際に、病気がうつることはありませんか？

採血による副作用から身を守るため、熟読し記載内容について注意してください。

採血中や採血後、まれにめまいや皮下出血などの副作用が発生することがあります。これら副作用から身体を守るため、次のお願いを守ってください。

※平成15年度副作用発生率 気分不良・吐き気・めまい・失神など：0.8% 皮下出血：0.2%、神経損傷（しびれ・運動障害）：0.01%

スポーツ



献血当日の激しいスポーツは避けてください。

身体への負担



重い荷物を持ったり、身体に力を入れすぎないように注意してください。また、針の跡をもんだり、こすったりしないでください。

飲酒

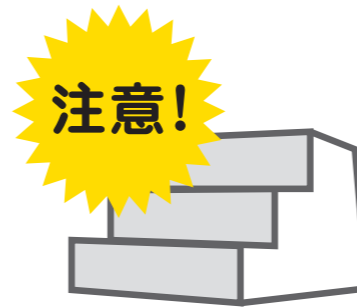


採血直後の飲酒は避けてください。

気分が悪くなったり、めまいを感じたら、すぐに座るか、横になってください。また、腕の痛みなど何か心配な時は、直ちに血液センターまで連絡してください。



エレベーター・階段など



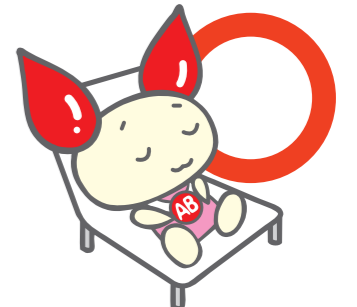
エレベーターや階段などを使用する際には、特に注意してください。

水分補給



水分を十分補給してください。

休憩



自動車などの運転をする時は、十分な休憩をとってください。